

プールでの事故を 防ぎましょう!

平成29年6月号

幼・保職員向け



プールでの事故を防止するためには…

共通理解・体制

- プールでは幼児から絶対に目を離さない。
- 指導・支援と監視(見守り)の役割を分担する。

環境構成

- 園児数、発達段階に対して、プールの広さ・深さは適正か。
- 施設設備の破損や、滑りやすい箇所はないか。
- 光っている水面や水しぶきは、死角を作りやすいため上からと中から見守ることが望ましい。

出典：『学校の管理下の災害 [平成28年版]』



実際に発生した事例



準備運動後、シャワーによる水慣れをし、足よりゆっくり入水、洗剤の空き容器を利用した水鉄砲で水遊びをしている状況を担任が目視で確認した。数分後、プールにうつ伏せで浮かんでいる状態で発見された。すぐに人工呼吸、胸骨圧迫(心臓マッサージ)、AEDによる処置を行った。病院に搬送されたが同日死亡した。

(幼稚園 / 4歳 / 男子)

プール遊びを終え、シャワーを済ませ、小走りでタオルを取りに行った時に、プールサイドで滑り転倒し左側頭部を強打した。

(幼保連携型認定こども園 / 3歳 / 女子)

『学校事故事例検索データベース』、災害共済給付データより

入水は、Foot First!

(足から先に)

⚠ 逆飛び込みは危険です ⚠

プール、海、河川等、どんな場所でも、必ず足から入水しよう!

